

長田菅原神社

上長田区の東北に位置し、菅原道真が祭られています。境内には石灯籠、狛犬、石鳥居など多くの石像物があります。

毎年、春祭りや秋祭り、本祭りなど多くの祭事が催され、伝統行事として地域住民に継承されています。

下広丁西宮大明神

下町区に位置し、祭神は恵比寿神で菊池次郎武重公が勧進したと伝えられています。

西宮大明神は、兵庫県西宮神社のことで商売繁盛、除災招福、五穀豊穡の神として古くから信仰を集め、商売の神様として祭られています。

放牛地藏

七城町加恵区に享保13年(1728)9月に建てられました。

地藏の背面には、「神ほとけおがめゆ先に親おがめ神やほとけもうれしがるらん」という和歌が彫られており、親孝行の大切さを問いかけています。



認定番号第ふるさとH27-13号 推薦者 上長田区



認定番号第ふるさとH27-14号 推薦者 下町区



認定番号第ふるさとH27-15号 推薦者 加恵区

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

【ギャラリー】

「菊池の写真愛好家四人展」廣田喜久男

期間：～1月29日(日)

菊池の四季折々の写真を展示します。ぜひご来館ください。皆さんのお越しをお待ちしています。

【まちかど資料館企画展】

「菊池三十三観音展」

期間：～2月26日(日)

展示会では、菊池三十三観音一番札所から三十三番札所まで全て紹介します。



第一番札所「輪足山東福寺」

出展者募集中

ギャラリーの出展者を募集しています。詳しくはお問い合わせください。

開館時間 午前9時～午後5時

※休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)

※1月3日(火)まで休館します。

菊池夢美術館情報

問い合わせ先 菊池夢美術館 ☎0968(23)1155

【夫婦の手紙・絵手紙展】

期間 ～1月15日(日)

全国から募集した手紙の部68点と絵手紙の部138点の作品を全て展示します。皆さんのお越しをお待ちしています。



熊本県立美術館所蔵作品展

【四季—くまもと菊池と美の記憶—】

期間 1月21日(土)～2月5日(日)

熊本や菊池の四季をテーマに、菊池にゆかりのある作家をはじめ、熊本を代表する作家たちが描いた名作の数々を展示します。大塚耕二、坂本善三の他、東山魁夷のリトグラフも展示予定です。たくさんのご来館をお待ちしています。



「天文学的作品」大塚耕二：作

開館時間 午前9時～午後5時30分

※1月3日(火)までは午前10時～午後4時

里山の竹活用
「地震のときは竹やぶに逃げろ」という言い伝えがありますが、これは平地での話。熊本地震の際、竹林が地すべりを起こし井手(農業用水路)を埋めてしまうという被害が数例ありました。昭和30年代以降、竹材の需要が減少したことで、里山には「放置竹林」が多くなっています。
先日、海外からのツアーでフットパス体験を提供していた際、イギリスの参加者が「自然の竹林はすばらしい」と水源地区の竹林を評価してくれました。竹が珍しい国の人にとっては、何げない竹林も美の一つになるんですね。
里山の風景の一部となっている竹林。これからの里山の風景を守っていくためには、視点を変えた竹活用(例えば、竹細工商品販売や竹を楽しく活用する「チークリンピック」など)が必要となる時代になっていくのでしよう。



地すべりを起こした原井手

物質的な豊かさの中の霊的な貧困、江南区孤独死1位
詩人アルネ・ガルボルグはお金に限界についてこう述べた。「食べ物を買うが食欲は買えない。薬は買えるが健康は買えない。寝心地の良いベッドは買えるが安眠は買えない。知識は買えるが知恵は買えない。華やかさは買えるが美しさは買えない。豪華さは買えるが温かさは買えない。楽しみは買えるが喜びは買えない。知人は得られるが友情は買えない。使用人は雇えるが忠実を買えない」
韓国の新聞によると、ソウル高級住宅街の江南区で、最近孤独死が多発しているという。ソウル市福祉財団によると、2013年、ソウル地域の孤独死の発生件数(疑いを含む)は2343件で、これは毎日6.4件の割合で発生していることになる。このうち江南区が年156件で、25自治区の中で最も多かった。もはや孤独死は単なる貧困が原因ではなく、誰にでも起こりうる社会現象になっている。

このソウル江南地域の憂鬱な統計は、経済的な豊かさがあるものの幸せを保証するものではないことを表す。多くの人は、人間は一人では生きていけないというのを知っている。お金持ちも例外ではない。ではどのように生きるか。
日本の天才数学者岡潔は生前、生きるということについて「…生きるということは、人が良く生きるうちに気がこもっているかどうか…。生きることは、動くことで見分けてはいけない。良く生きていくかどうかで見分けるべきだ」と語った。
私たちは良く生きていくのだろうか。それは自我を押し通すのではなく、自他を認め、自分の中を良いもので満たし、余裕がらくる優しさや温かさが必要ではないかと思う。豊かな人生とはただ時間を過ごすのではなく、良く学び、考え、他人と分け合うことから生まれる内面の喜びが大きい人生ではないかと思う。人生というマラソンは走る本人だけでなく、支えてくれる伴走者や街頭で応援してくれる友人がいてくれるとき、皆が幸せになり最後の瞬間まで輝き続けるのではないかと思う。

韓国発見シリーズ ⑤
ソウルには金です



【作文の部】
「かわいいぶたさん」
旭志小3年 吉田はるな
わたしのお父さんとお母さんは、ぶたを育てる仕事をしています。二人は朝早くからとんしゃに行き、ぶたにえさやみずやりなどしています。
お父さんとお母さんは、ぶたが元気に大きくなっておいしいお肉になってほしいと言っています。わたしも大きくなっておいしいお肉になってほしいと思います。
お母さんぶたは、一回にへいきん十二ひきくらいの子をうむそうです。わたしは人間の何倍もの数の赤ちゃんをうむと知って、びっくりしました。生まれた子がぶた一ぴきは、一、三キログラムから一、四キログラムの重さだそうです。赤ちゃんぶたをだっこしてみると、生まれたばかりの赤ちゃんぶたでも、すごく大きいし、少し重たいです。
仕事をしていた、一番気をつけていることは、ぶたさんは、病気になることも言葉が話せないの、いつもよく見て体調かん理をして

いるのだそうです。だからわたしは、自分も手つだいにいった時は、ぶたさんの様子をよく見て、気をつけようと思いました。また、重いえさをたくさんはこんだり、ぶたに注しゃをする時に、たくさんの子ぶたをかかえたりしなければいけないので、大へんだそうです。それを聞いて、わたしも早く重いえさをこべるようになってお母さんをたすけたいと思いました。
お母さんとお父さんは、ごはんを食べたり生活をするために仕事をがんばっていると言っています。

た。わたしは、毎日わたしたちのためにがんばっているお母さんとお父さんがすごいなあ、りっぱだなあと思います。お母さんは、わたしが生まれる前からとんしゃではたらいしています。毎日朝早くからぶたの仕事をしていて休みもありません。わたしもしょう来は、お母さんとお父さんといっしょにはたらいして、手つだいたいです。



【ポスターの部】 菊之池小6年 富岡志帆